

令和5年度学校自主研修事業・視察報告

教諭 持田 亮 佐藤 淳

1. 立命館中学校・高等学校

訪問日:令和5年11月21日(火)

(1) 沿革

1905年 開校(現在118年)

2014年 京都市伏見区から長岡京市に移転

生徒が輝く学校を目標とした学校運営

生徒との面談を丁寧に行っている

(2) 学校規模

中学校 1学年8クラス 715人

高等学校 1学年9クラス 993人

・京都・大阪周辺の生徒がほとんどだが、名古屋から通ってくる生徒もいる。



(3) 進学実績(令和4年度卒業生)

立命館大学・立命館アジア太平洋大学 289名

他大学進学 約70名

国公立大学 45名 医学部 9名

(4) カリキュラムについて

4つの教育の柱(確かな学力・真の国際力・豊かな感性・高い倫理観と自立心)の下、小学校から高校まで12年間で3ステージに編成。

2nd stage (中学校1・2年)

CLコース:学校進学を想定したコース

ALコース:医学部・難関大進学を目標としたコース(学内推薦はしない)

3rd stage (中学校3年・高校1年)

コアコース:文理総合コース

コアGJコース:国際感覚・語学力を養うコース

3rd stage (高校2年・3年)

CEコース:文社系

GLコース:文社系・国際

SSコース:理数系

SSGコース:理数系・国際

MSコース(中3~高校3年):難関他大学進学コース(ALコースから)

※ALコース, MSコースの生徒は, 学内推薦が認められている他のコースへの変更を随時受け付けている。

※MSコースの生徒は朝テスト(10分)および45分8コマの授業を実施(水のみ6時間)

(5) 課外講習について

- ・基本的には授業と同じことを実施している。
- ・教員の時間数のうち、17時間を超えて授業を行った場合には手当を支給している。

(6) 修学旅行について

- ・修学旅行を始め、各種行事は生徒代表(委員会)が中心に行っている。
- ・修学旅行先、生徒への説明、業者との折衝は、全て生徒が行う。
- ・就学旅行先はドイツから無人島まで、行き先はさまざまである。

(7) 部活動について

- ・7割強の生徒が所属。

(8) 国際交流について

- ・提携している学校は世界で16校、各国のトップ校との交流も多い。

(9) 校舎について

- ・環境に配慮した作り。太陽光発電、トイレの水は雨水を利用。
- ・全教室に可動式のプロジェクター設置
- ・美術室以外の教室では、黒板ではなくホワイトボードを設置。
- ・コの字型の校舎で空間に屋根を設置。雨天でも利用できるようにしている。
- ・美術や音楽などの芸術をできるだけ重視した教育。書や絵、生徒の作品など各所に展示を行っている。



可動式プロジェクターとホワイトボード(教室)



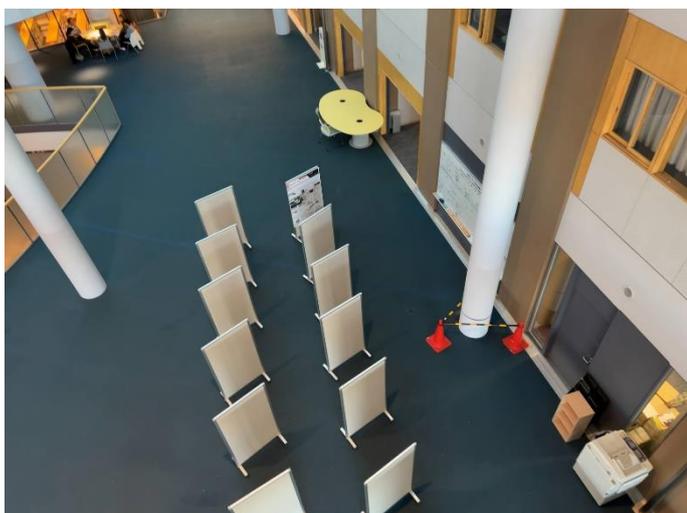
発表等を行うホール(放課後は吹奏楽部使用)



太陽光発電



特集コーナーが充実した図書館



ポスターセッション等に使用するスペース



屋上にあるテニスコート

(10) 探究活動について

- ・6年間を見据えた計画。高2・3年では2単位配当。
- ・中1段階では「楽しく学ぶ」をコンセプトに、ドローン、3Dプリンターでものづくり、商品開発など、様々なテーマを用意。
- ・中3段階で、これまで学んできたことや好きなことをまとめ、発表会。
- ・高1では、長岡京市の7つの課から様々なテーマをもらい、問題についてグループで取り組む。話し合い、聞き取り調査など。
- ・発表会を行って優秀なものは全体発表。市の担当者に来ていただき、自分たちがまとめた提言を聞いてもらう。
- ・高2・3は、個人テーマを各自が設定して取り組む。
- ・グループ分けについては、文理分けはせずに実施。高2の1学期にテーマを考え、それ以降は研究。
- ・様々なコンテストに応募し、受賞。査読論文にチャレンジしている。
- ・教員のスキルについて
 - ・各分野、好きな先生を中心にやっていただいている。担当教員が異動等でいなくなると厳しい。
 - ・経済産業省のコンテンツ「STEAM ライブラリー（未来の教室）」を見て、できそうなものを取り入れている
 - ・10人程度のチームで企画運営を実施

(11) ICT 利活用について

(11-1) 授業関係

- ・今年度、AppleTVを全教室に設置。無線でやり取りできるので、とても便利になった。
- ・生徒にはiPadを持たせている（学校で一括購入し生徒に配布）。
- ・ロイロノート、Classiを利用。ロイロノートはとても便利で、紙での印刷は考査の時だけとなった。
- ・ロイロノート使用時間については、あまり遅い時間に使用しないように、教員には伝えている。
- ・教員への研修は、年度始めに集中的に行っている。ただ、習熟した先生が増えてきており、全体への研修は、あと1年ぐらいやれば確実であると考えている。
- ・授業で使うアプリとしては、ロイロ、Classiの他、「kahoot!(英語)」「ibispaint(美術)」「GeoGebra(数学)」「GRAPES(数学)」など。ただし、使用しているアプリが多すぎるという見方もあり、整理が課題となっている。

(11-2) 校務関係

- ・職員全員にWindowsPCとiPad支給。他にマイクロソフトアカウントを配布。
- ・各種健康調査については、入学段階にFormsを使用して保護者に入力してもらっている。

- ・職員の連絡関係は、全て「Teams」で行っている。
- ・採点業務について、「Clip 採点支援システム」を利用。とても便利。

(12) 視察を終えて

私学ということもあり、予算や規模の大きさが感じられた。一方で働き方改革が進んでおり、効率化の工夫が随所に見られた。ICT 機器の利活用で校務の効率化を図っていることがよく分かった。教員間のやりとりについてはマイクロソフト社の Teams を便利に利用しているとのことだった。本校では職員会議資料の配布程度にしか使っていないが、今後どのような使い方ができるのか検討してみたい。

また、探究活動においては自治体との連携が進んでいることが分かった。長岡京市としても、将来若者が同市に残ってほしいと考えているようで、学校の取り組みを積極的に応援しているようだった。(市長が立命館高校の OB とのこと)。自治体と連携した取り組みは宮城大学など、大学では行っているのを聞くが、高校でここまで連携した取り組みをしているのは驚いた。

副校長先生をはじめ、3名の先生方に対応していただきました。

2. 京都私立堀川高等学校

訪問日：令和5年11月22日（水）

(1) 沿革

昭和23年 開校

平成11年4月1日 新校舎に移転

平成14年以降、SSH研究指定校

設置学科 普通科 2クラス

人間探究科・自然探究科 4クラス



(2) 運営組織について

・校務分掌として研究部を設けている。進路部と分けている。

・探究について一括管理。人員が15名程度で、若手が中心となっている。

・週2回、戦略会議を実施。参加は学年主任など。

・月の34限に固定。

・資料はTeamsで共有している。

(3) 探究活動について

(3-1) 全体の流れ

・論文完成が2年生前期までに終わらせる。

・HOP STEP JUMPの3つのプロセス

・生徒の研究報告書は、以前は冊子にしていたが、今はやめた。それよりも、研究を行った結果、何を感じたかを重視しており、そちらの内容について冊子にしている。

(3-2) 会議の持ち方について

・企画立案会議（研究部と学年主任、担当）、担当者会議（学年主任、担当者）これを毎週2回実施

・教員は2名で1ペア。（慣れている人と新しく入った先生）

・探究の授業は2単位。火・水・木実施で2クラス毎に。

・1・2年生でも時間をずらしている。

(3-3) 校内体制について

・担任は分掌に所属しない。

・週2時間ではやりきれないのが実情。

・教員研修はしっかりと行っている。伝達研修が大事で、増やす必要があると考えている。

・STEPの段階で各ゼミ10人ぐらい。

・ゼミの内容は毎年同じ。

・各教科に2名の割当をお願いしている。

・ゼミの内容は、物理、人文、国際文化、人文科学社会ゼミなど。

(3-4) 外部との協力について

- ・大学との連携などは行っていない。
- ・大学院生がゼミにつき1人。TAとして配置している。論文添削や面談を担当。
- ・草の根で募集している。研究部で一番大変な作業。
- ・予算についてはSSH事業と、京都市教委の補助でまかなっている。

(4) ICTについて

- ・BYOD形式で、仕様で決めたものを生徒が各自持ってくる。
- ・キーボードが必須なので、仕様に入れている。
- ・実情としては、生徒は携帯もつなげられるので、ゲーム等に使用する点が悩みでもある。
- ・私的な利用は禁止と指導はしている。

(5) 授業について

- ・とりたててICTを使った特色のあるようなことは現時点では行っていない。
(受験者が多い京都大学の入試問題とICT活用の親和性が低いという理由もある。)

(6) 図書館について

- ・探究で使用することが多い。
- ・貸出冊数は普通の学校と変わらない。その場で借りてすぐに返すことが多い。
- ・生徒のリクエスト本で学校にないものは、司書が自ら借りに市の図書館などに足を運んでいる。

(7) その他

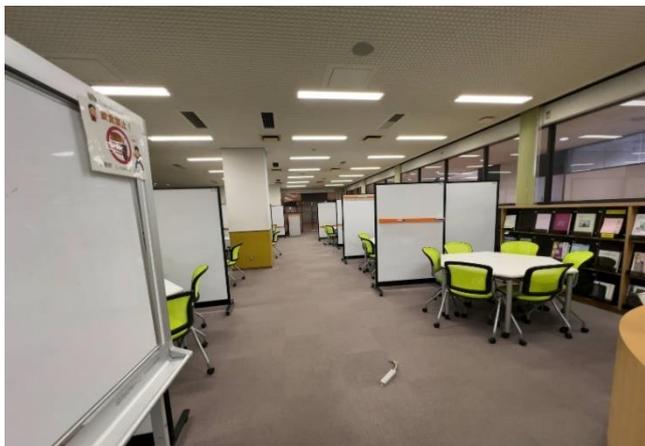
- ・修学旅行については、生徒たち(委員会)で行先を決め、計画を立てさせる形をとっている。
- ・「ムートル」で課題
- ・校務支援システムは「SystemD」を使用。



図書館。本に沢山触れることを実感させるため、探究活動で人文系のゼミでは常に図書館を利用。



生徒のリクエストに応じ、司書さんが猫に関する書籍を取り寄せて準備している様子。



図書館2階にある話し合いスペース。ホワイトボードがいくつかの間にかパーティションに。



教室の様子。黒板の上にスクリーンがあり、プロジェクタを使うと黒板が使えないということでした。生徒用ロッカーがないことに驚きました。

(8) 視察を終えて

本校の取り組みの様子を説明した際に、1単位で行っている内容としてはかなり大変なのではないかと驚かされた。堀川高校でも、週2時間配当で、かつ一斉ではなく時間をずらして行うなど工夫をしても、回すのが大変であるということだったので、本校の向陵 Plearning を見直す必要がある場合には参考になると感じた。また、働き方改革の関係で、今後、総取得単位数を標準に近づけていこうとしているとのことだった。また、課外は行っていないとのこと。当初から予備校や塾などに通わなくても進学できる学校を目指しているが、今後は放課後など余裕のある時間に、生徒が自主的に残って、自ら学習したいというふうにしていきたいと考えているとのことだった。

教頭先生に対応していただきました。